【116】

氏名	藤澤伸次（ふじさわしんじ）
学位の種類	医学博士
学位記番号	論医博第442号
学位授与の日付	昭和43年5月23日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文題目	**二，三の皮膚疾患に於ける空中真菌の病因的関与に関する研究** **—特に夏期に増悪する湿疹との関係について—**
論文調査委員	（主査）教授 太藤重夫　教授 田部井和　教授 加藤篤二

論文内容の要旨

空中真菌の胞子量は一般に夏期を中心とした季節に増加する。従来から空中真菌と気管支喘息やアトピー性皮膚炎との関係については論じられて来たが，著者は真菌胞子落下量の変動と症状のそれとを一にするかのように毎年夏期になるときまって再発増悪をくりかえす二，三の皮膚疾患をとりあげ，これらの疾病の発症に空中真菌が病因的意義をもっているか否かを検討する目的で研究を行ない，以下の知見を得た。

京都地方に多く落下検出される空中真菌（Alternaria, Aspergillus, Penicillium）の水溶性菌体抽出液による皮内反応がアトピー性皮膚炎患者では正常人に比して膨疹型即時反応で強くツ紅斑型遅延反応で弱い。しかも膨疹型即時反応はアトピー性皮膚炎そのものよりもむしろ気道アレルギーと関係が深い。

毎年夏期に再発増悪する湿疹性皮膚炎患者の一部では空中真菌菌体抽出液の皮内反応で湿疹型遅延反応が認められた。そしてこの陽性はツ紅斑型遅延反応と関係が深くツ紅斑型遅延反応の強度に平行して高率にあらわれた。この反応型が陽性のものは比較的中年の女性に多く皮疹は前腕伸側，手背，顔面，頚部に好発する。そしてこれらの患者に多量の真菌菌体抽出液を皮下注射したり吸入させたりすると原病変が誘発されて増悪する場合が多く，かつ一部に行なった菌体抽出液の貼布反応でも若干の陽性が認められた。したがって湿疹型遅延反応陽性で誘発試験も陽性の湿疹性皮膚炎患者に於いては，その発症に空中真菌が contactant あるいは inhalant として病因的役割を演じていると考えられる。そしてこのように考えられる症例は著者の実験対象とした夏期増悪型の湿疹性皮膚炎患者の約10%に相当し，従来不明の原因で夏季増悪をすると考えられた湿疹性皮膚炎患者の原因解明に役立ったと思われる。

いわゆる多形滲出性紅斑および遠心性に環状を呈する紅斑患者の一部では空中真菌の皮内反応で環状紅斑型遅延反応が認められたが確実な病巣反応は得られず，これらの疾患の発症に空中真菌が病因的意義をもっているかどうかは不明である。上記の2群以外の疾患群では誘発試験によっても病巣反応は見られず，それらの疾患と空中真菌の間の病因的因果関係を暗示する現象すら認められなかった。ただ，アトピー性皮膚炎患者のごく一部のもので皮内注射後，蕁麻疹，気管支喘息などを招いたものがあった。

菌体抽出液を酸可溶性成分，酸不溶性成分，エーテル可溶性成分のそれぞれを含む3つの分画に分けた場合，様々な反応型がそれぞれどの分画によって担当されているかを調べるためにそれぞれの分画で皮内反応を行なったところ，膨疹型即時反応，ツ紅斑型遅延反応，湿疹型遅延反応のいずれの反応型も酸可溶性成分を含む分画で再現された。ことに非透析性の多糖類を主とした物質（酸可溶性成分）を含む分画で湿疹型遅延反応が惹起されたことは湿疹型過敏性を生じる物質の性格について新しい問題を提起したことになると思われる。

空中真菌を用いて皮下注射，静脈内注射などによって家兎，モルモットを感作するとアルサス型と思われる皮膚反応を生じたが，この際菌種間の交叉反応が認められた。

モルモットに菌体成分を塗擦して湿疹性感作を試みたがこれは成功しなかった。

論文審査の結果の要旨

毎年夏期に再然，増悪を繰返し，原因不明の湿疹がある。著者は空中真菌（Alternaria, Aspergillus, Penicillium）の水溶性菌体描出液を用い，これらの患者に皮内反応を試み，その一部に湿疹型反応を呈することを見いだした。ついで貼付試験によっても湿疹型反応を観察し，かつ抽出液の皮下注射や吸入より皮疹の誘発に成功した。さらに抽出液をエーテル可溶，酸可溶，酸不溶の分画に分け，前記諸反応の活性因子は酸可溶性，非透析性の分画中に存在することを認めた。以上の成績は，じゆうらい原因不明であった夏期増悪する湿疹の一部が空中真菌による接触性皮膚炎であることを見いだしたものであり，かつ接触性抗原は低分子化学物質であるという通説に対し，非透析性の高分子物質も接触性抗原になり得ることを証明したものである。著者はこのほか，多型滲出性紅斑，環状紅斑の一部の患者で空中真菌抽出液に対する特異的な皮膚反応を認めたが，それが病因的意義を有するか否かを証明するには至らなかった。

本論文は学問的に有益であって医学博士の学位論文として価値あるものと認める。